

2月17日（金）3階B室 9：00～9：40

1 単元名 ことばを広げよう 「ことわざ紙芝居を作る」

2 単元について

単元 目標	○ことわざ、慣用句などを調べ、その意味やそのことばの成り立ちを知る。 ○ことわざの意味をふまえて成り立ち物語を現代版につくりかえ、自分の言葉として使えるようにする。
----------	---

アメリカ、シンガポール、フランス、ブラジル、中国に3年から6年間滞在し、現地校に通っていた子どもたち7名の学級である。英語日本語交じりの会話も多いが、日本語での日常会話には困ることはない。しかし、学習用語にはわからない言葉も多く、自分の考えをまとめたり、それを話したりするのに困難を感じている。「なんていうのかなあ」という言葉もよく聞かれる。確かに読み取ったり、自分の考えを論理的に表すためには語彙力が課題である。

読解で正しく読み取ることを大事にしてきた一方で、「のはらうた」を読んで詩を味わったり、リズムのおもしろさに気づいたり、ことばを広げる学習を続けてきた。ことわざや慣用句を調べ、表現の巾を広げ、日本語の面白さに触れさせたいと思っている。ことわざの使い方を調べ、例文作りをしたり、使い方の状況を考え、自分の言葉でことわざを言い換えたりする。日本語の意味を勘ちがいすることの多い帰国の子どもたちが、身近な生活の中でことわざをどう活用するのか、ことばのやり取りを通して、ことわざの意味を確かめていく。また、海外のことわざにも目を向け、日本のことわざと比べ、言葉の使われ方の面白さを感じさせたい。

3 学習指導計画（6時間目／全8時間）

- (1) ことわざや慣用句の意味を調べる…3時間
- (2) 調べたことわざを、自分の観点で分類する…2時間
- (3) お気に入りのことわざを選び、紙芝居にして説明し、交流する…本時1／2時間
- (4) ことばのおもしろさについて、気づいたことをまとめる。…1時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

- ・ことわざ物語を紙芝居に表し発表する。
- ・ことわざが生活の中でどのように使われているかイメージしながら聞き、ことばの裏側にある昔の知恵を知る。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 一人ずつことわざ物語を発表する。	○紙芝居の準備
2. ことわざ物語を聞き、同じような意味のことわざがないか探す。	○自分の生活経験からことわざ物語を作る。 ○自分の「ことわざ帳」を参考にする。
3. 生活の中でどのような時に使えるかを話し合う。	○「つまり、こういうこと」と自分の言葉で言い換える。
4. 「今日のなるほど」を書く。	○本時の学習を振り返る。